



ダダ 100 周年フェスティバル プログラム (5月19日現在)



ダダが誕生してから 100 年。その運動は、1916 年、ヨーロッパの移民や亡命者たちにより、チューリヒにあるキャバレー・ヴォルテールで生み出されました。ダダイストたちは、その「詩的ナンセンス」を持って、自分たちが生きる狂気の時代を笑い飛ばしました。ダダはモダンアートからコンテンポラリーアートまで、その後の芸術の発展に、決定的な影響を与えました。

今でも「ダダ」の定義は定まっていません。ダダは、「ダダイスト本人でなければ分かり得ない。そして彼らは、自分たちがダダイストであることを明かすことはない」とさえ言われています。

ダダは、真にグローバルなアート・ムーブメントです。その流れはベルリン、ニューヨーク、パリ、そして東京にまで至り、今日でもアーティストたちに、グローバルかつ普遍的なインスピレーションを与えています。

ダダの流れを受けた「マヴォ」運動は、東京で生まれました。そしてこの夏、世界の中心とも言える数多くの都市同様、東京でも多くの周年イベントが開催されます。7 月から 9 月には(フーゴー・バルがダダのマニフェストへの扉を開いた 1916 年 7 月 14 日からちょうど 100 年)、アート関連施設が協力し、ダダの展覧会、コンサート、パフォーマンスなどを展開します。

主なイベントは以下のとおりです。

- 東京のアート・スペース、スーパー・デラックスにおいて、キャバレー・ヴォルテールを一週間にわたり再現(7 月 11 日~18 日)
- 1923 年のオリジナルな「マヴォ」のパフォーマンスの再演
- 数多くのアーティストとエキスパートにより制作される、ダダ新聞の発行(都内無料配布)
- 早稲田大学 會津八一記念博物館における、ダダ オリジナル作品の展示
- スパイラル/ワコール・アート・センター、ASAKUSA、The Container、晴れたら空に豆まいて、Dust Bunny における、現代アートの展示、コンサート、ワークショップ、パフォーマンスなど

本フェスティバルでは、このユニークなアート・ムーブメントを日本の皆さまに一層身近に感じていただくことを目指し、この夏、東京でも盛り上がります。

イメージ・フォーラム

開催中 - 7月中旬 **イメージ・フォーラム・フェスティバル 2016**

「ダダ 100年：フルックス・フィルム」プログラム

4月26日-5月6日 イメージ・フォーラム、東京
5月14日-22日 京都芸術センター、京都
6月3日-5日 福岡市総合図書館、福岡
6月22日-26日 愛知芸術文化センター、愛知
7月中旬 横浜美術館、神奈川

ダダイズムと未来派の影響を受け、美術における既成の概念を〈遊び〉の感覚で軽々と飛び越えようとした運動、フルクス。その中心人物ジョージ・マチューナスによって集成された37本の短編映画集フルックス・フィルムが、ダダイズム誕生から100年を記念して、貴重な16ミリプリントで上映される。

ドミューン / Dommune

6月下旬

アーティストの宇川直宏が2010年3月1日にDIYで開局した、日本初のライブストリーミングスタジオ兼チャンネルのドミューン。ダダイズム100周年のコラボレーションを予定。

早稲田大学 會津八一記念博物館

6月29日-8月7日 「チューリッヒ・ダダ100周年とダダリスト・ツァラの軌跡」展

現代アートの起源となった1916年のチューリッヒ・ダダ誕生100周年を記念し、ダダの創始者ツァラの軌跡をルーマニア、スイス、パリへとたどる展覧会。機関誌DADAの初版オリジナル全号、ツァラとピカソの詩画集、各国のダダ展図録などが展示される。(同期間の「ル・コルビュジエと吉阪隆正」展との合同開催)

国立新美術館アートセンターライブラリー

7月6日-10月17日

マヴォや三科といった日本のダダ受容と関連の深い資料の展示。また、選書コーナー「話のたね」でも、ダダ100周年にちなみ国立新美術館の蔵書の中からダダ関係の図書、展覧会カタログ等が特集される予定。

DUST BUNNY

7月9日-7月17日 「フダンシズム展」

100年前のダダイズムが社会に与えた影響と現代のフダンシズムが持つ力を相対化させ、ダダイズムの本質を探る展覧会。7月14日には「ダダ宣言」を記念し、参加者作家全員で「フダンシズム宣言」を発表するパフォーマンスを行う予定。

スーパー・デラックス

7月12日-18日 「キャバレー・ヴォルテール@スーパー・デラックス」

ダダ発祥の地のキャバレー・ヴォルテールを再現し、国内外から様々なアーティストを招聘。連日、ライブ、パフォーマンス、ワークショップ、展示会や映像など盛りだくさんのプログラムで開催するダダ・フェスティバル。参加者一部(五十音順)伊藤桂司、奥山順市、OL(五木田智央+塩田正幸)、onnacodomo、倉敷芸術科学大学の学生による日本のダダを代表する「劇場の三科」の再演、CARRE、サムソナイト・オーケストラ(スイス)、ジャック・デュミエール(スイス)、鉄割ア

ルバトロスケット、D.K.Z(HAMADARAKA+河村康輔)、中山晃子、永戸鉄也、生意気、マージナル・コンソート(今井和雄、越川 T、椎啓、多田正美)、巻上公一、三角みづ紀、MERZBOW+石橋英子など。

アンスティチュ・フランセ日本

7月15日 「ダダ・ナイト」

学問・文学・芸術の前衛運動「ダダ」誕生 100 年を祝い、詩的なナイトイベントを開催。ほとばしるクリエイションの不条理な爆発音が鳴り響く！東京にダダがまたやって来る！

倉敷芸術科学大学 「劇場の三科」

7月中旬

1925 年と 1927 年に東京の築地小劇場と朝日講堂にて発表された日本のダダ、マヴォによる「劇場の三科」を、筑波大学の五十殿利治氏監修のもと、倉敷芸術科学大学芸術学部の川上ゼミが再現。ダダ・パフォーマンスを行う。

ASAKUSA

7月21日-8月21日 「敵対と融和」展(仮題)

ダダから多大な影響を受けるスイス人作家トマス・ヒルシュホルンの活動記録を通じ、アートにおける地域コミュニティとの協働と実社会への関与について考察するキュレーション展。

トーキョーワンダーサイト

7月24日(予定) トーク&朗読パフォーマンス@TWS

ダダとマヴォについて、美術館学芸員をゲストに迎え、最新の調査も含めて発表するトークイベント。ダダ関連のテキストや「マヴォの宣言」、詩の朗読パフォーマンスを行い、当時のこの芸術運動の精神を伝える。朗読パフォーマンスには、TWS レジデンスに滞在している海外アーティストらも参加し、第一次世界大戦中、敵味方の区別なく、中立国スイスに集まり形成されたダダを今日の社会において再考する。

多摩美術大学

7月中旬

「宇宙のダダ」会場:スーパー・デラックス、アンスティチュ・フランセ
地球から 30 万km以上離れた深宇宙からのデータによる音響詩・視覚詩、人工衛星からのテレメトリ・データと共に記述する自動記述詩、プログラム・コードから生成される生成詩、プログラム・コードとして活用できる実行詩、コードをリアルタイムに操作することから生まれるライブコーディング詩、データから 3D プリンターで生成される立体詩など、2014 年に打ち上げた深宇宙彫刻 DESPATCH からのデータを用いて、新たな詩作の実験 ARTSAT プロジェクトが開始される。

The Container

7月18日-10月3日 「Spam」(仮題)

日本に滞在経験のあるスイス人メディアアーティスト、ナジャ・ソラリ。
音の詩をもとに、ナジャ・ソラリは現代のデジタルとバーチャルな世界を包括する詩をてがけ、ボット生成されたスパムメールやテキストにインスパイアされた特別なミクスト・メディアインスタレーションを The Container にて制作する。

代官山「晴れたら空に豆まいて」

7月中旬-8月中旬

ダダのサイレント映画上映、様々なアーティストが参加するパフォーマンス、ワークショップや展示会、日本の伝統芸能の人形劇を通してダダイズムの本質を探る多彩なイベントを開催。

スパイラル

8月4日-8月28日(15-17日は休館)「Gallery Voltaire」

ダダに関連した書籍、アート作品、ポスターなどを販売(会場:MINA-TO/スパイラル 1F)。さらに、100年前からのダダ諸作品を現在の世界の状況を照射しながら創造的に再解釈した作品制作を行ない、展示とパフォーマンスを実施。「ダダの精神」が現在に持つ意味を再提示する。

(1) 関連プログラム1

8月4日-8月14日 TOLTA 展示「ダダでない ダダでなくない」

現代詩や戯曲などを表現媒体とし、2006年より活動するユニット TOLTA による展示。(会場:スパイラルエントランス/スパイラル 1F)

8月6日 TOLTA パフォーマンス「スペクトラム・ダダ・ナイト」

TOLTA によるダダの諸作品を多様な表現形式により再演するパフォーマンスの企画。(会場:スパイラルカフェ/スパイラル 1F)

(2) 関連プログラム2

8月6日 ナイジェル・ロルフ他 パフォーマンス「sti l l l l l l l l i v e」

ロンドンの Royal College of Arts (RCA) の美術学部で教鞭をとるナイジェル・ロルフと研究室を修了予定の学生5名によるパフォーマンス。(会場:スパイラルホール/スパイラル 3F)

(3) 関連プログラム3

8月18日-28日(予定) 関川航平展示、パフォーマンス

インスタレーションをはじめ様々なアプローチを展開する現代美術作家関川航平による展示及びパフォーマンス。(会場:スパイラルエントランス/スパイラル 1F)

東京ドイツ文化センター

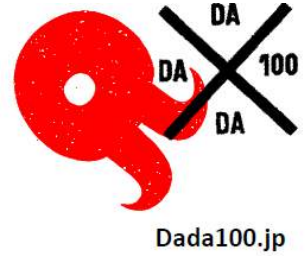
9月7日-28日 「ダダから100年、そして今」

抵抗、革命そして創造 — ダダは単なる美術運動というだけでなく、社会的な実験でもあった。東京ドイツ文化センターでは、ダダ運動の一部を取り上げて今の時代に置き換え、そこに新たな光を当てる一連の催しを実施する。ダダ運動の記録映像から、70年代、80年代のアナーキーな抵抗の象徴としてのパンクと、その日本の映画やベルリンの音楽シーンにおける例を紹介しつつ、さらにはソーシャルメディアを利用したインタラクティブなウェブフォーマットまで、様々な局面を網羅した内容。なかでも多くの人が集まってハッキングをしまくる hacktion (hack + action) は、まさにダダ的な意味で既存の秩序を超越し、テクノロジーの限界をシフトするもの。

ダダ・ピアノ: ダダイズム 100周年記念コンサート 7月8日 会場:豊洲文化センター

ダダ誕生の地スイス・チューリッヒの「ギャラルーヴォルテール」と「ダダ画廊」にて演奏されていた作曲家やダダ運動に参加していた音楽家の楽曲を通し、ダダの真髓を探求することを目的としたピアノのソロコンサート。ピアニストは西澤安澄。

メインパートナー



後援



協賛



開催会場／主催



早稲田大学會津八一記念博物館 Aizu Museum, Waseda University : 2016/03/

2016 年度ダダ百周年記念特集展示概要 :

「チューリッヒ・ダダ 100 周年とダダイスト・ツァラの軌跡」

現代アートの起源となった 1916 年のチューリッヒ・ダダ誕生 100 周年を記念し、ダダの創始者ツァラの軌跡をルーマニア、スイス、パリへとたどる展覧会で、機関誌 DADA の初版オリジナル全号、ツァラとピカソの詩画集、各国のダダ展図録などを展示します（同期間の「ル・コルビュジエと吉阪隆正」展と合同開催）。

会場：早稲田大学會津八一記念博物館（新宿区西早稲田 1-6-1）2 階常設展示室

（電話番号：03-5286-3835 メールアドレス：aizu@list.waseda.jp）

展示日程：6 月 29 日（水）～8 月 7 日（日）〔最終日以外日曜休館〕

共催：早稲田大学図書館 後援：スイス大使館

Special Exhibition of the Aizu University, Waseda University, 2016 :

100th Anniversary of Zurich Dada & Trajectory of Dadaist, Tzara

This summer, supported by the Swiss Embassy, Tokyo, Aizu Museum, Waseda University, will celebrate 100th anniversary of Dada Zurich, the origin of contemporary art, and retrace the trajectory of the founder, Tristan Tzara (Romania, Zurich, Paris) by exhibiting original documents of Dada movement in Zurich and Paris : *Revue DADA* (Zurich), *Dadaphone* (Paris), Tzara's Poetry Book, *De mémoire d'homme*, with Picasso's signed lithographies, catalogs of the Exhibition Dada in Tokyo, Paris, Zurich, 1966-68, etc. (Joint program with the Exhibition *Le Corbusier & Yoshizaka* of the same period at the Aizu Museum.)

June 29 - August 7 (closed on Sundays except the last day). Admission free.

(Aizu Museum: 03-5286-3835, aizu@list.waseda.jp)

主要展示資料・作品 Principal documents scheduled for exhibition :

① *Mouvement DADA* (1917-1919, Zurich), *Dadaphone* (1920, Paris)

早稲田大学中央図書館蔵書・請求番号：F702 00610（全 7 冊）Collection of the Waseda University Library

② Tzara+Picasso, *De mémoire d'homme* (9 lithographes signed by Picasso), Bordas, Paris, 1950.

（ツァラ旧所蔵本、ピカソの自筆書名入り、リト 9 点。塚原史蔵書）Collection of Prof Fumi Tsukahara.

③ 1968 年ダダ展図録表紙（東京国立近代美術館、塚原史蔵書）Catalog of the Exhibition Dada, Tokyo, 1968.

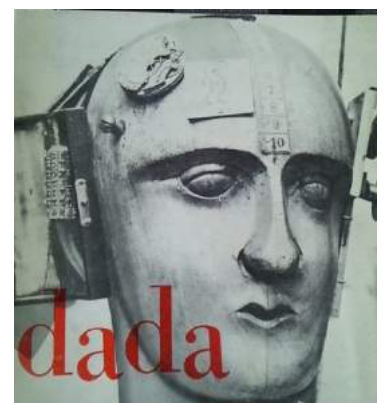
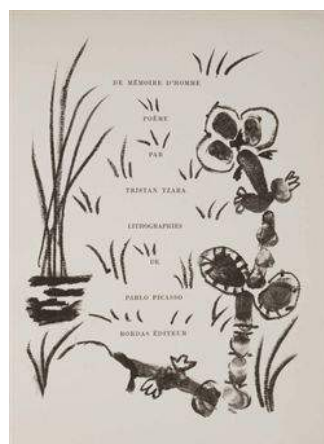
①



②



③



フダンシズムとは

今回の展示では腐男子という言葉から派生した「フダンシズム」という造語を足がかりに、この構造を捉え直し、

BL をとりまく社会背景までもも含め言及します。

BL(ボーイズラブ)とは、1970年～1980年代ごろに発生した、男同士の恋愛をテーマにした漫画ジャンルです。

以前は、オタク同様、影に隠された趣味嗜好でしたが、現代では美術雑誌やTV、書店などでも扱われ、広く認知されるようになりました。

BL 消費者の多くは女性であり、彼女たちは腐女子と呼ばれています。男性でありながらそうしたBLを消費する人達を「腐男子」と呼びます。フダンシズム展という展示名ですが、今回の参加アーティストは男性だけではありません。BL を消費する腐男子に加え、腐女子や BL に触れたことのない作家も参加し、「フダンシズム」に象徴されるような現代のセクシュアリティを、作家個人の文脈で捉え直し、展示全体を通して思考していきます。



<展示作品ステートメント>

近藤 拓丸



仮想空間上でファンタジーを作成し、それをミックスしてアウトプットするという手法で作品をつくっています。その構造は自分がBLを消費する時の構造と似ているところがあります。

森田 緩乃



無垢な魂はやがて何かを得、何かを失う。この世界は、常に不安定で、未成熟で、揺らいで、危うい。いびつな魂は、失った何かを埋めるために生きようとする。それはもう取り戻せない、のかもしれない。それでも生きる。私はそんな魂の質の再現を試みている。

瀧 大海



男性がBLを消費する時、自己の投影を行う場合がある。男性が持つことのできなかったシンレラストoryにBLはなり得る。私は自身の理想像を絵画として展示する。

とわすずか

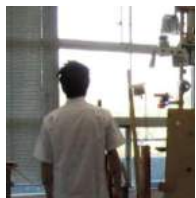


BLに興味を持つなんておかしなことだってわかってる。多分、いないはずのお父さんを求めて、たどり着いた結果。じゃあお父さんが、私をもう一度産んでくれたなら、戻るかもしれない。だからお父さん、もう一度私を産み直して。

日山 亮佑



支持体は作家のわがままを受け入れる女性性です。男性である私はそんな寛大な女性に憧れて女性性を視覚化します。



安川 源

テクノロジーの発達に伴って個人化が進む現代の、ナルシスティックな性消費を思考するパフォーマンス作品。BL漫画を音読した音を重ね、自分一人で完結する世界を多面的に増幅させる。



岡野 山佳梨

男性の肉体的要素、女性の投影する性の矛盾からリアルなゲイからBLへの変身を描きます。

DadA Turns 100 yEars celebRation in toKYo "DUST BUNNY"

The joint exhibition "fudansh(i_i)zm"



<http://www.st-dustbunny.com>



Cabaret Voltaire at SuperDeluxe

pre-event July 11 July 12^{onward} 2016 TOKYO

Sanka in Theater

Neo Dada Performance

1925-1927-2016

'100 years anniversary DADA'

Content: Dada-inspired performance and re-enactment of "Sanka in Theater"
(1925, Tsukiji Little Theater: 1927, Asahi Kodo, Tokyo).

Presented by Kawakami Laboratory, Kurashiki University of Science and the Arts

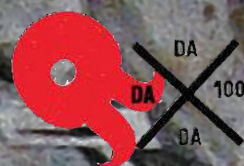
Cast: Miku Kinohara, Keiko Hinokuchi, Sumire Funakoshi

Costume design: Misato Kubo

Directed and edited by: Kounosuke Kawakami

Supervised by: Toshiharu Omuka (University of Tsukuba)

Duration 20 minutes





トーキョーワンダーサイトレジデンス スタジオ風景

トーク&朗読パフォーマンス@TWS

タダイズムの誕生100周年を記念して、トーキョーワンダーサイトでは、タダイズムとマヴォについて、学芸員をゲストとしてお招きし、最新の調査も含めてお話しいただくトークイベントを開催します。また、タダ関連のテキストや「マヴォの宣言」、詩の朗読パフォーマンスを行い、当時のこの芸術運動の精神を伝えます。朗読パフォーマンスには、TWSレジデンスに滞在している海外アーティストらも参加し、第一次世界大戦中、敵味方の区別なく、中立国スイスに集まり形成されたタダを今日の社会において再考します。

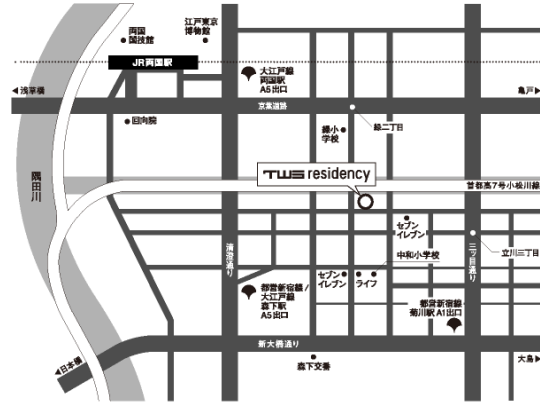


■日時:平成28年7月24日(日)(予定)

■会場:トーキョーワンダーサイトレジデンス
〒130-0023 東京都墨田区立川2-14-7 アーツ菊川1F

■ゲスト: **三本松 倫代 (神奈川県立近代美術館 主任学芸員)**
主な担当展覧会に「すべての僕が沸騰する 村山知義の宇宙」(2012)、「視覚の実験室 モホイ=ナジ/イン・モーション」(2011)、「畠山直哉Draftsman's Pencil」(2007)など。

■パフォーマンス: **やなぎ みわ (現代美術家)**
代表作に写真作品「マイグランドマザーズ」シリーズや、ビデオ作品「グランドドーターズ」など。第53回ヴェネチア・ビエンナーレ(日本館代表)、2001年並びに2014年の横浜トリエンナーレに参加。近年は演劇にも取り組み、「ゼロ・アワー-東京ローズ最後のテーブル」「1924海戦」等を世界各地で上演。2016年、KAAT神奈川芸術劇場とステージトレーラープロジェクト「日輪の翼」を野外公演の予定。



〒130-0023 東京都墨田区立川2-14-7 アーツ菊川1F
TEL: 03-5625-4433 FAX: 03-5625-4434

<http://www.tokyo-ws.org>

宇宙のダダ - 深宇宙彫刻DESPATCHからのデータを用いた実験詩

Dada in Space - Experimental Poetry using the Data from ARTSAT2:DESPATCH

久保田晃弘（多摩美術大学）

2014年12月3日、多摩美術大学と東京大学が中心となって進めてきた、ARTSATプロジェクト2号機の深宇宙彫刻「DESPATCH」が、主衛星「はやぶさ2」を搭載したH-IIAロケット26号機の相乗りペイロードとして地球脱出軌道に投入され、人工小惑星となった。50cm立方、重量32kgのDESPATCHは、3Dプリンタで制作された渦巻き状の造形（彫刻）部を有した宇宙のランドアート作品である。

DESPATCHは自律的に作動するコンピュータを搭載したビークルメディアであり、機体に搭載された各種センサーの値からアルゴリズムに生成された詩を地球に向けて送信した。詩の内容はダダの詩人、フーゴ・バルの音響詩「Gadji Beri Bimba」を4文字ごとにカットアップ&リミックスしたもので、深宇宙からの極めて微弱な電波は世界各地のアマチュア無線家の協力によって、最遠470万Km（月までの距離の約12倍）の彼方から受信できた。

2度と地球に戻ることなく太陽の周りを永遠に周回し続けるDESPATCHは、未来の人類、あるいはそれに代わる知的生命体へのタイムカプセルでもある。DESPATCHには、厳しい宇宙環境の中で劣化していく機体のデッサン/イラストと設計図/開発資料、写真やメッセージが彫られたマイクロ・ロゼッタストーンとしてのMEMSメモリーが搭載されていて、それが再び発見される日を待ち続ける。

今回の「ダダイズム100周年」ダダ・フェスティバル東京では、地球のはるか彼方から送信されたこのDESPATCHの宇宙詩のデータをベースに、プログラムコードや3Dプリンタのような、新しいメディアを活用した、さまざまな詩作の実験を行う。それらは、あるものはグラフィックス、あるものは立体オブジェクト、あるものはディスプレイ上の映像音響、またあるものはリアルタイムのパフォーマンスとして、7月15日にアンスティチュ・フランセ日本で開催される「ダダ・ナイト」や、スーパーデラックスでの「キャバレー・ヴォルテール」等で披露される予定である。

実験詩の第2世紀 - The Second Century of Experimental Poetry

- 深宇宙からのデータとプログラム・コードから生成される生成詩
- プログラム・コードとして実行することができる実行詩
- データとフォルムが一意に対応した3Dプリンターで造形する立体詩
- コードをリアルタイムに操作することから生まれるライブコーディング詩



DESPATCHから送られた宇宙詩

ROSE LENG BIMN
BLCK IOLA ITAL BLCK ROSE LITA LENG HOGE KATA
ROSE LAUL LAUL
BLCK IMBA LOOO OAOL AHN*
BLCK ROSE
CERS LITA LONG MBAL BERI BLCK ROSE HOPS IOLA LOMI
BERI
ITAL

- ・ ARTSAT Project - <http://artsat.jp>
- ・ ARTSAT Facebook - <https://www.facebook.com/artsat>
- ・ ARTSAT2:DESPATCH - <http://despatch.artsat.jp/>
- ・ ARTSAT GitHub - <https://github.com/ARTSAT>
- ・ ARTSAT Vimeo - <https://vimeo.com/user13272107>

Dada in Space Temporal Web Page - <https://goo.gl/ZxKef7>

19 May 2016
For Immediate Release

Spam email is the new sound poetry

The Container is delighted to showcase an exhibition with the Swiss artist Nadja Solari. The exhibition, presented as part of Japan's Dada Festival, celebrating a centenary to the Dada movement, consists of a site specific installation and a range of live performances, such as spam yodelling, a commissioned classical composition for piano and the projection of archival Mavo films, to take place during the opening night reception, 18 July 2016.

A bilingual (Jap/Eng) catalogue will accompany the exhibition.



© Nadja Solari, *Concept drawings for exhibition*, 2016. Courtesy of The Container, Tokyo.

Spam (working title)
Nadja Solari

18 July – 3 October, 2016
Opening reception: 18 July, 19:30-21:30

The Container
<http://the-container.com>

For press enquiries and high resolution images,
please contact Shai Ohayon at
info@the-container.com

Drawing references to sound poetry, Swiss artist Nadja Solari, is creating a spatial mixed-media installation The Container, inspired by bot-generated spam emails and text – the generic poetry of our current digital and virtual existence.

The subject lines of such emails are often comical neologisms that try to outsmart the spam filtering programmes to avoid interception, and used as the backbone of this exhibition.

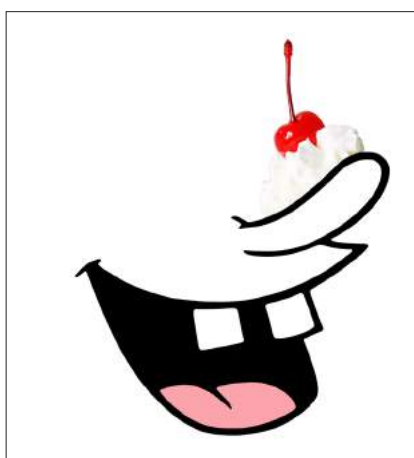
The exhibition at The Container is a loose conglomerate, of everyday objects, each with a different kind of circuit, or a repeated mechanism, to raise issues relating to the boundaries between the private and public.

2016年5月19日
プレスリリース: 即時公開

新しい音の詩としてのスパムメール

The Containerはスイス作家のナジャ・ソラリの展覧会を展示致します。本展覧会はダダ派の運動100周年を祝う日本ダダ・フェスティバルの一部として展示され、サイトスペシフィック・インスタレーションやスパム・ヨーデル歌唱、ピアノのための委託クラシック作品や、マヴォ記録映画の放映などの幅広いライブ・パフォーマンスが含まれており、2016年7月18日の夜のオープニング・レセプション中に披露されます。

二ヶ国語(日/英)の図録が展覧会に付随します。



Spam (working title)
ナジャ・ソラリ

2016年7月18日 ~ 2016年10月3日
オープニングレセプション: 2016年7月18日, 19:30-21:30

The Container
<http://the-container.com>

プレスに関するお問い合わせは、Shai Ohayonまでご連絡
ください。
info@the-container.com

音の詩を引用して、ナジャ・ソラリは現在における電子と仮想存在の包括的な詩として、ポット生成されたスパムメールとテキストに影響を受けた特別なミクストメディア・インスタレーションをThe Containerに制作します。

これらメールの題目は、しばしば傍受信を防止するスパム・フィルタプログラムを裏をかこうとするコミカルな新語であり、本展覧会の支柱として利用されています。

The Containerでの本展覧会は、個人と公共の境界に関連する問題を上げる、それぞれが異なる種類の回路又は連続した構造を持つ、日常物のゆるい集合体です。

代官山 晴れたら空に豆まいて
2016 ダダイズム生誕 100 周年企画

今に生きるアーティストやパフォーマーとのダダイズムとの接点を見出し、ダダイズムとのコラボレーションを試みるイベント。

既成の秩序の否定、攻撃、破壊というダダイズムの特徴と言われる点には、否定する対象への理解と、当たり前のこととされていたことを俯瞰したり違うアングルで捉えるという過程がある。破壊と再構築は生き続ける伝統に不可欠なものとして捉え、日本の伝統と言われる華道、書道、舞、また落語、そこにある恣意性と自由、新しい視点からのアプローチでダダイズムとのコラボレーションを試みる。

Mon 07/11 無声映画上映会 & 鼎談

代官山映画会 vol.03

ダダイズムの影響を受けた無声映画の上映と日本映画におけるダダイズムの影響について鼎談

- 片岡一郎（活動弁士）
- 坂本坂本頼光（活動弁士）
- アーロン・ジェロー
（イエール大学映画学プログラム及び東アジア言語・文学科（兼但）教授）

Thu 08/18 柳家喬太郎&ダダ星人

柳家喬太郎とダダ星人の宇宙対談

- 柳家喬太郎
- ダダ星人（円谷プロダクション）

Sat 08/20 花響

出演

- 香瑠鼓（振付家、アーティスト）
- 小宮求茜（書家、エッセイスト）
- 平間磨理夫（華道家）



DADA HACKEN

2016年9月7日(水)～
9月28日(水)

**GOETHE
INSTITUT**

Sprache. Kultur. Deutschland.

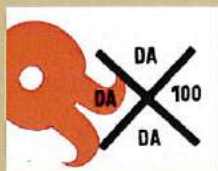


filming
concerts
lectures
exhibition
hacktions
presentations
workshops

2016年9月7日(水)~
9月28日(水)

ダダから100年、 そして今

抵抗、革命そして創造 — ダダは単なる美術運動というだけでなく、社会的な実験でもあった



東京ドイツ文化センターでは、ダダ運動の一部を取り上げて今の時代に置き換え、そこに新たな光を当てて一連の催しを実施します。ダダ運動の記録映像から、70年代、80年代のアンアーキーな抵抗の象徴としてのパンクと、その日本の映画やベルリンの音楽シーンにおける例を紹介しつつ、さらにはソーシャルメディアを利用したインタラクティブなウェブフォーマットまで、様々な局面を網羅した内容となります。なかでも多くの人が集まってハッキングをしまくるhacktion (hack + action) は、まさにダダ的な意味で既存の秩序を超越し、テクノロジーの限界をシフトするものです。

東京ドイツ文化センター

〒107-0052 東京都港区赤坂7-5-56

Tel. +81 3 3584 3201

www.goethe.de/tokyo





ダダイズム誕生100周年
100th Anniversary of Dada

ダダ・ピアノ

DADA

AZUMI NISHIZAWA

AZUMI NISHIZAWA


2016.7.8 fri

会場: 豊洲シビック
センターホール5階

開場 18時 開演 19時

PIANO



 Schweizerische Eidgenossenschaft
Confédération suisse
Confederazione Svizzera
Confederaziun svizra

Embassy of Switzerland in Japan
スイス大使館

azumi nishizawa

DADA PIANO

後援：スイス大使館



Schweizerische Eidgenossenschaft
Confédération suisse
Confederazione Svizzera
Confederaziun svizra

Embassy of Switzerland in Japan
スイス大使館



ダダイズム誕生100周年

100th Anniversary of Dada

1916年、第一次世界大戦の血なまぐさい戦いの真っ只中で、スイスは平和の島としての地位を守り通していました。

そこではヨーロッパ諸国から集まった芸術家たちが既成の価値観を打ち砕くことを目指し、ダダの名の下に音楽を奏で、朗読をし、狂乱的なパフォーマンスを繰り広げました。ダダは今でも世界中のクリエイターたちに刺激を与えています。

西澤安澄 PIANO



satoshi kuronuma [aosora]

桐朋学園女子高等学校音楽科を卒業、同大学にて神谷郁代、岡本美智子、池田素子に学ぶ。ジュネーブ音楽院大学院にてドミニク・メルレに師事。2002年に同音楽院の演奏家過程を満場一致の一等賞で卒業後、ホアキン・ソリアノに招かれ拠点をマドリッドへ移し世界各国で演奏活動を開始。日本の主要ホール、京都の清水寺、高台寺での演奏会等、さまざまなシーンにおいて活躍するかたわら世界各地の音楽祭にも招かれ（フランス・ショパン協会主催パリ・ショパン音楽祭、ジュネーブ芸術協会の定期公演、グラナダのエンクエントロス・ファリャ音楽祭、ウベダ国際音楽舞踊フェスティバル、グラナダのファリャ記念ホール改装後の柿落としのリサイタルなど）スペイン音楽のスペシャリストとして、スペインの3大作曲家の一人であるファリャの遺族から厚く信頼され、スペイン国内にとどまらず各国でその活動は高い評価を得ている。

これまでにリリースしたCD、ファリャ「ピアノ作品全集」、ファリャ「ピアノ編曲全集」、アルベニス 組曲「イペリア」はそれぞれ高い賞賛を得、日本国内でもレコード芸術特選盤に選ばれるなど、ますます注目を浴びる存在となっている。

2003年、映画「福耳」（宮藤官九郎、田中邦衛主演）出演。

2004年、上海師範大学非常勤教授に就任。

2006年よりヤマハ・スペイン・ポルトガル専属アーティストとして各地でコンサート、マスタークラスを行っている。

2010年、ローマでの演奏会はRAI（イタリア国营放送TV）とCANAL10で収録され、同年インターネット音楽祭国際親善賞を受賞。

PROGRAM プログラム

ベルグ：ピアノソナタ 作品1 (1908)

シェーンベルグ：6つのピアノ小品 作品19 (1911)

ラヴェル：高貴で感傷的なワルツ (1911)

サティ：ジムノペディ (1901)、官僚的なソナチネ (1917)

カゼッラ：9つのピアノ小品より1番 ストラヴィンスキーのために (1914)

ストラヴィンスキー：練習曲より4番 無窮動 (1908)

ドビュッシー：ピアノのために (1901)、喜びの島 (1904)



2016年7月8日（金）開場 18時 開演 19時

会場：豊洲シビックセンターホール 5階

出演：西澤安澄（ピアノ）

全席自由

前売券 一般4,000円 / 小中学生 1,500円 / ペア (1組2名様) 7,000円

当日券 一般4,500円 / 小中学生 2,000円 / ペア (1組2名様) 8,000円

■ 曲目曲順は変更になる場合がございます。■ 未就学児のご入場はお断りいたします。

お問い合わせ・お取扱い：ムジカキアラ

TEL: 03-6431-8186 FAX: 03-3495-1770 info@musicachiar.com

営業時間：平日 10:00-18:00 http://www.musicachiar.com

豊洲シビックセンターホール 5階

〒135-0061 東京都江東区豊洲2-2-18

豊洲文化センターシビックセンターホール

TEL: 03-3536-5061 FAX: 03-5560-0505

〈電車利用の場合〉

東京メトロ 有楽町線 豊洲駅下車7番出口より徒歩1分
新交通ゆりかもめ 豊洲駅下車改札フロア直結

〈バス利用の場合〉

都バス利用 豊洲駅下車 徒歩2分
業10 新橋⇄とうきょうスカイツリー駅前
海01 門前仲町⇄東京レポート駅前
門19 門前仲町⇄深川車庫前、東京ビッグサイト
東15 東京駅八重洲口⇄深川車庫前
東16 東京駅八重洲口⇄東京ビッグサイト
錦13 錦糸町駅⇄晴海埠頭
錦13折返 東陽町駅前⇄昭和大学江東豊洲病院前
急行06 森下駅前⇄日本科学未来館（土・休日のみ）